

2024年6月21日

## 通貨ニュース

# インドネシア:6月金融政策会合～通貨安への対応に苦慮～

インドネシア銀行(中央銀行、BI)は19～20日に開催した金融政策会合で政策金利のBIレートを従来の6.25%で据え置いた(図表1)。上限金利の翌日物貸出ファシリティ金利と下限金利の翌日物預金ファシリティ金利も、それぞれ7.00%、5.50%で維持された。4月会合では、急速なIDR安などを受け市場予想に反し追加利上げを実施したが、その後は2会合連続で据え置きとなっている。なお、ブルームバーグ集計の事前予想では、据え置きが優勢だった。

声明文およびペリーBI 総裁の会見では、IDRの安定化やインフレ情勢、FRBの動向に対する言及が目立った。BIは声明文の中で、地政学的緊張の継続やドル買いの流れを受け、新興国市場への資金流入が抑制されている、と指摘した。前回5月会合以降のIDR相場を確認すると、市場心理悪化やインドネシアの財政赤字拡大への懸念などが重しとなり、20日には2020年4月以来の安値を記録した(図表2)。こうした動きを受け、ペリー総裁は「USD/IDRの基本的価値(fundamental value)は16000を下回る」「今後のIDRは上昇が見込まれる」としており、一段のIDR安は想定していないように見える。もっとも、為替介入を継続しIDRの安定化のために各種ツールを最大限活用する、とも述べており、更なるIDR安には利上げおよびIDR買い介入などで対応する構えだ。

物価動向を見ると、直近公表の5月消費者物価指数(CPI)は+2.84%(前年比、以下同様)と、4月の+3.00%および市場予想の+2.97%を下回った(図表3)。BIのインフレ目標(+1.5～+3.5%)には引き続き収まっている。一方、変動の激しい食料品価格と政府の統制価格を除くコアCPIについては、+1.93%と市場予想および4月を上回った。もっとも、水準としては十分に低く、総合ベースの結果と合わせて考えても、インフレ再加速が懸念される状況にはなっていない。BIも「本年のインフレ率は引き続き目標圏内に抑制される」と自信を示している。

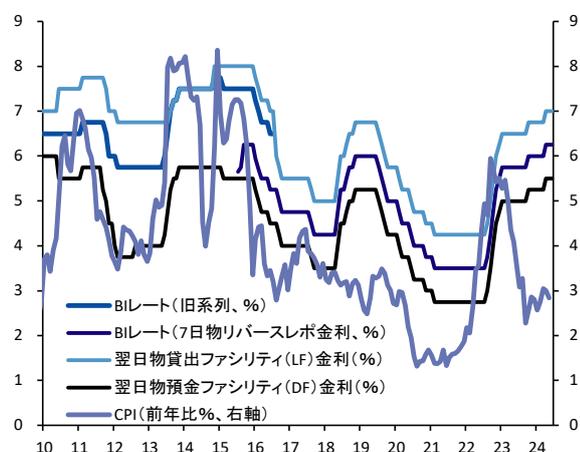
最新の経済動向に関して、消費者信頼感は依然高水準での推移が続いており、堅調な内需が成長率を支えるだろう(図表4)。BIも、2024年の成長率見通しを+4.7%～+5.5%と前回会合から据え置いた上で、4～6月期の経済活動に関しても、個人消費や財・サービス輸出の強さを強調している。

以上を踏まえ、ペリー総裁は先々の金融政策に関して「利下げの余地があるかないかと問われれば、ある」としたものの、世界情勢の不確実性や国内の財政懸念が和らぐ必要がある、とくぎを刺した。FRBの動向に関しては、「年後半に利下げに動く可能性が高い」としているものの、以前は利下げ回数の予測を明示していただけに、ややタカ派方向へ認識をずらしたように思える。IDR相場やFRBの動向次第ではあるものの、BIの年内の利下げ回数はせいぜい1回というのが現状の妥当な予測だろう。他方、最近のIDR安にも関わらず、利上げ以外の選択肢を活用していることから、再度の追加利上げの可能性は高くはない

金融市場部  
長谷川 久悟  
03-3242-7065  
[kyugo.hasegawa@mizuho-bk.co.jp](mailto:kyugo.hasegawa@mizuho-bk.co.jp)

だろう。IDR に関しては、BI の現状維持路線そのものは支援材料だが、それだけで IDR が買われるとは思えない。実際、20 日の政策決定後も IDR 安で反応した。市場は、今回の金融政策会合を「十分にタカ派的ではなかった」と認識したのだろう。結局、本格的な IDR の反転には、FRB の利下げ着手が本格的に見通せる状況が必要になるだろう。なお、次期大統領の下で財政赤字が拡大するとの思惑から 6 月の IDR は売られていることは上述の通りであるが、短期的には財政にまつわる報道にも注意が必要だ。新興国の中では財政の健全性が高いだけに、少々の財政悪化懸念でも売りに晒されてしまうのが IDR の弱点である。プラボウォ・次期大統領の口からの説明は本稿執筆時点では確認できておらず、同氏から税制政策に関する発言が聞こえてきた場合、IDR 相場は大きく振られる可能性がある。

図表 1: 政策金利と消費者物価指数(CPI)の推移



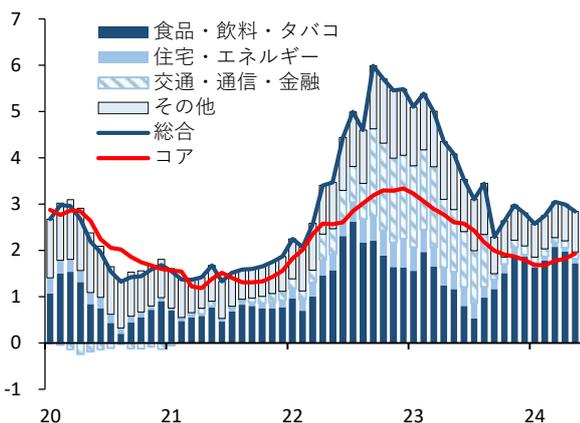
出所: インドネシア銀行、Bloomberg、みずほ銀行

図表 2: IDR 相場動向



出所: Bloomberg、みずほ銀行

図表 3: 消費者物価の動向 (前年比%, %ポイント)



出所: Macrobond、みずほ銀行

図表 4: 消費者信頼感指数



出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。